

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2016年11月）

目 次

内 政	
◆キスカ大統領とフィツォ首相の確執	2
◆外務・欧州問題省の汚職疑惑	2
外 政	
◆フィツォ首相の「中東欧16カ国+中国」首脳会合出席	2
◆ザリーフ・イラン外相のスロバキア訪問	3
◆バルニエ欧州委員会首席交渉官のスロバキア訪問	3
社 会	
◆ブラチスラバ空港への中国の関心	4
経 済	
◆ミネベア社のコシツェ進出	4
◆国会による税制改革案の承認	4
◆国会による2017年度予算案の承認	5
◆スロバキア中央銀行月報（11月）	5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆キスカ大統領とフィツォ首相の確執（4日付各紙）

これまで、キスカ大統領は、政府やフィツォ首相に対して少なくとも直接的に批判することを避けてきた。しかし、先日行われた Trend 誌のインタビューの中で、キスカ大統領はカリニャーク内相を巡る金銭スキャンダルの捜査中断を批判すると共に、フィツォ首相の外交政策に関する一連の発言が、ライチャーク外相の次期国連事務総長選挙の落選につながったとの認識を示した。これに対し、フィツォ首相は「キスカ大統領と良い関係を保つことを望んでいる」と強調したものの、スロバキアにおける密集したムスリムコミュニティの形成やEUの難民強制割り当て制度に対してあらためて反対の立場を表明しており、キスカ大統領との意見の相違が浮き彫りとなっている。

◆外務・欧州問題省の汚職疑惑（21日付スメ紙）

外務・欧州問題省元職員のフラウコヴァー氏は、同省がスロバキアのEU議長国関連イベントの企画を Smer -SD（方向党-社会民主主義）に近い人物に通常よりも高い契約料で委託したとして告発した。このイベントは、フィツォ首相の推薦でマルキーザ・テレビ局の会長を務めた経験があり、スロバキアテレビ局の次期会長への立候補が噂されているチャパーコヴァー氏によって企画された。汚職撲滅に取り組む NGO 法人の Transparency International は、外務・欧州問題省は公共調達に関する法令に違反し、Smer 党大会の企画も手がけている Evka 社向けの内容で契約書を作成したとしている。フラウコヴァー氏は、ライチャーク外相がこの疑わしい契約を承認したと述べている。

外 政

◆フィツォ首相の中東欧16カ国+中国首脳会合出席（5日）

フィツォ首相はリガで行われた第5回「16+1」首脳会合に出席した。会談後フィツォ首相は「中国を過小評価することはできない。現在、中国は世界で2番目に大きな経済を持ち、超大国になりつつある。中国はイデオロギーではなく自国の国益をプラグマティックに追求する国であり、世界のあらゆる地域に対して双方にとり有益な一定の協力を提供している」と述べた。更に、フィツォ首相は「中国はスロバキアにとり最大の貿易パートナーの一つであり、中国とスロバキアの相互関係のために多大なエネルギーを費やしてきた」と強調すると共に、中国の李克強首相をスロバキアに招待したことを明らかにした。

首脳会合では、中東欧諸国と中国が協力して取り組むべき事項を確認したが、そこにはインフラ整備、金融、人的交流、農業、保健及び地域復興といった分野における協力が含まれている。

◆ザリーフ・イラン外相のスロバキア訪問（１０日）

ライチャーク外相は、イランのザリーフ外相と会談を行い、「スロバキアとイランは相互協力の強化に向け、更なる歩みを進めた」と強調すると共に、「ここ最近、二国間とEU議長国・イランの両方のレベルにおいて関係が緊密化し改善していることを嬉しく思う」旨述べた。ライチャーク外相はEUとイランの対話が前進していることを評価し、イランには中東地域における重要な役割があると述べた。その観点から両外相はシリア、イラク及びイエメンにおける紛争の政治的解決の模索について議論した。

経済協力に関しては、イランは巨大市場を持つ交通の要所であると共に、原油とガスの産出国であることから、欧州のエネルギー供給先多様化とエネルギー安全保障に貢献し得る国である。スロバキアは、エネルギーや運輸分野以外にも、自動車産業、農業、廃棄物処理、建設業、化学産業、上下水道整備で、あるいはイラン経済の近代化といった分野に可能性があると考えている。ライチャーク外相は、20社以上のイラン企業と30社以上のスロバキア企業が参加したスロバキア・イラン・ビジネスフォーラムにおいて「好ましい政治状況とパートナーとしての対話を通じて、新たな機会、新たな貿易投資活動のための環境が整えられている」と述べた。

◆バルニエ欧州委員会首席交渉官のスロバキア訪問（１０日）

10日、欧州委員会バルニエEU離脱首席交渉官がスロバキアを訪問し、フィツォ首相と会談を行った。フィツォ首相は「各国が個別に交渉することはあってはならない。また、英国が正式にEU離脱プロセスの開始を通告するまではいかなる交渉も行わないということも重要である」と述べ、英国との交渉に際してはEU27カ国の一体性が不可欠との認識をあらためて示した。更に同首相は「我々にとって神聖とも言える4つの基本的な自由については、実質的にはいかなる交渉もあり得ない」と強調した。

フィツォ首相はバルニエ交渉官との間で、比較的多くのスロバキア国民が英国に居住していることも取り上げ、「現在英国で働き、また居住しているスロバキア国民が、引き続き英国国民と同じ条件の下で暮らしていけるかが我々にとって重要問題である。英国は将来の移動の自由に関して一定の制限を設けることを考えていると予測されるが、既に英国で暮らしているスロバキア人に関しては英国国民と同じ立場と権利が維持されるべきであることを徹底的に主張するつもりである」と強調した。

社 会

◆ブラチスラバ空港への中国の関心（21日付スメ紙）

ブラチスラバ空港会社のトルフリーク社長に続き、エールシェク交通・建設・地域開発大臣とフィツォ首相も、中国のブラチスラバ空港への関心を示唆した。フィツォ首相は、昨年12月に初めて中国の大型投資家のブラチスラバ空港への参入の可能性に言及したが、その約1年後に貨物輸送のための空港拡張工事を検討していることをあらためて表明した。空港の新規拡張部分を国と民間企業のどちらが運営するのかは明らかではなく、首相府はそれについて答えるのは時期尚早であるとしている。トルフリーク社長は、500機以上の航空機を所有し欧州でのビジネスに大きな可能性を秘めた、中国の大企業「海南グループ」について言及しており、この投資家が旅客輸送にも関心を示すことも考えられるが、政府高官はこの件につき何の発言もしていない。トルフリーク社長は「就航地と旅客数が増加していることが、国だけでなく民間の投資家が空港の運営を行う必要がある理由の一つである」と説明している。今年のブラチスラバ空港の年間旅客数は180万人を超えると見込まれている。

経 済

◆ミネベア社のコシツェ進出（24日：経済省プレスリリース）

ジガ経済相、ラシ・コシツェ市長及びミネベア社の貝沼代表取締役は、軽井沢において、コシツェ市への投資に関する覚書に署名した。この覚書は投資の実現に向けた重要な一歩となるものである。ジガ経済相は「我々は久しぶりに世界的な大企業によるコシツェへの投資を獲得する重大なチャンスを迎えている。これは、数千万ユーロ規模の投資で数百の雇用を創出する大型投資である。この投資により、東スロバキアの発展を助けると共に、我々が魅力的で信頼できるパートナーであることを再び証明することができる」と述べた。

ラシ・コシツェ市長は「最後まで全て順調に進めば、コシツェ市と地域全体に非常に大きな活力をもたらすものである。将来にとり、特に重要であるのは、ミネベア社が研究開発分野での投資を行う計画を持っているということである」と述べた。

◆国会による税制改革案の承認（24日付各紙）

国会は、所得税法の改正を承認した。2017年1月から発効するこの改正法には、法人税率の22%から21%への引き下げ、配当収入に対する14%の健康保険税の廃止、2017年以降の利益に対する7%の配当税導入、個人事業主の標準控除率の40%から60%への変更と上限額の2万ユーロへ引き上げが含まれている。また、2018年1月からは、赤字または低収益の企業

にも一定額の「ライセンス料」を義務づける「タックス・ライセンス制度」が廃止される。本改正法により、移転価格税制も修正された。

また、政府の価格統制下にある企業（エネルギー、通信、保険業、製薬業等）に対する特別税の税率が、1月から300万ユーロを超えた純利益の8.712%と現行の2倍になるが、2021年までには段階的に現行の税率に引き下げられる予定である。

◆国会による2017年度予算案の承認（30日付各紙）

国会は2017年度予算を可決した。歳入は154億2千万ユーロ、歳出は174億3千万ユーロが見込まれ、財政赤字は今年の1.9%から1.3%に抑えられることとなる。なお、政府は2019年に収支均衡の達成を目指している。財政赤字の削減は、主に、たばこ税及び銀行、保険会社、通信、エネルギー企業に対する特別税の引き上げや配当税の導入、更に給与税の引き上げ等の増税によるものである。

フィツォ首相は「2017年度予算の土台となっている目標と基準は達成されるであろう」と述べると共に、来年度予算により最も恩恵を受けるのは、前年比で3億ユーロ増額となる教育部門であるとの認識を示した。これにより、教員給与は（本年9月に続き）来年9月にも再び6%上昇する予定である。また、フィツォ首相は、来年度予算は、医療部門への歳出が過去最高となる他、ブラチスラバ・バイパス建設やジャガー・ランド・ローバー社の進出に伴うインフラ整備といった大型プロジェクトが含まれていることを強調した。

独立機関である財政責任審議会（RZZ）のオードル氏は、来年度予算につき、現在好調な経済を財政赤字削減のために十分に活用していないと述べている。税金は予想を上回り、新税が導入されるにも関わらず、依然として政府債務残高はGDP比で52%を超えており、債務ブレーキ制度の下で法的な制約を受ける水準に達している。オードル氏は、来年度の主なリスクとして、医療分野での債務増加、地方自治体の不安定な財政状況、配当税による歳入の過大評価を挙げている。

◆スロバキア中央銀行月報（11月）

1 GDP

欧州統計局の速報値によると、第3四半期のユーロ圏経済は前期比で0.3%の成長となり、第2四半期の成長速度が維持された。

第3四半期のスロバキア経済は0.7%成長した。第2四半期に0.9%成長したスロバキア経済は、予想通り第3四半期に入り反発し、年初の経済速度に戻った。前年同期比で見ると、季節調整前の経済成長は3%と、第2四半期

の3. 8%から鈍化した。

2 労働市場

速報値によると、第3四半期の雇用率は前期比で0.6%。前年同期比で2.4%の上昇であった。雇用率の上昇速度は経済危機以前の水準に戻りつつある。雇用率の力強い上昇の背景には、特にサービス部門の一部が、雇用を増やしてビジネスを拡大していることがあると見られる。

9月の平均賃金は、前年同期比で3.2%上昇し871.1ユーロとなった。これにより、第3四半期全体の賃金の上昇率は3.6%となる見通しである。賃金上昇の加速には、主に、鉱工業とサービス業が寄与しているが、商業部門でも賃金が著しく上昇している。9月に実施された教員の給与水準の引き上げも賃金上昇に貢献した。

3 物価

10月の物価は前年同期比で-0.3%と、8月から下落率が縮小したと見られる。前月比では0.3%の上昇となり、これには季節的要因による衣類及び履物価格の上昇と郵便料金及び燃料価格の上昇が寄与した。

2016年の平均物価は、第3四半期予測の予想通り、前年比で0.5%の下落になると見られる。また、物価は12月には前年同期比でプラスになると予測される。2017年は一年を通してインフレが加速していくと予測されるが、上半期は低インフレ環境が続くと考えられる。

4 貿易

9月の商品輸出は前年同期比で2.6%増加し、輸入は2.7%減少した。貿易黒字額は4億400万ユーロに達した。

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

